



## 展覧会事業

### 展覧会の方針

日本における写真・映像文化のセンター的役割を果たすと共に、国際的な交流の拠点となるべく、コレクションの活用と自主企画・誘致展を組み合わせながら、「質の高い写真・映像文化と出会う美術館」に相応しい展覧会を開催する。

#### ○感動を与える

観覧者に感動を与えるとともに、専門家から一般の鑑賞者まで、満足度の高い展覧会を実施する。

#### ○ミュージアム・コンプレックスの実現

写真美術館の3つの展示室あるいはホールを有効に組み合わせ、いつ誰がきても楽しめる展覧会のラインナップを提供する。

#### ○全てが企画展

固定的な常設展示と異なり、収蔵品を有機的に結びつける収蔵企画展、または独自の切り口による自主企画展等を開催する。

#### ◇収蔵展・自主企画展

大規模改修工事のための休館に伴い、展覧会事業は休止。ただし、「第8回恵比寿映像祭 動いている庭」は近隣施設で開催した。リニューアル・オープン 総合開館20周年記念展覧会として、12本の展覧会（5本の自主企画展、6本の収蔵展、1本の映像展）の準備を進めた。

#### ◇誘致展

写真月間との共催や、大規模改修工事のための休館に伴い、写真団体や企業、新聞社の企画に共催、後援、広報などの支援をし、他会場で展覧会を開催した。また、リニューアル・オープン以降の計画を検討した。

展覧会事業  
自主企画展

第8回恵比寿映像祭「動いている庭」

Yebisu International Festival for Art & Alternative  
Visions 2016 : Garden in Movement

- 期 間** 平成28年2月11日(木・祝) ~2月20日(土)  
10日間
- 主 催** 東京都/東京都写真美術館・アーツカウンシル東京  
(公益財団法人東京都歴史文化財団) /  
日本経済新聞社
- 共 催** サッポロ不動産開発株式会社/公益財団法人日仏会館
- 後 援** TBS/J-WAVE 81.3FM
- 協 賛** 株式会社資生堂/サッポロビール株式会社/  
東京都写真美術館支援会員
- 寄 付** 富士重工業株式会社
- 協 力** アンスティチュ・フランセ日本/Culture.pl/  
KyotoDU/びあ株式会社/  
株式会社北山創造研究所/  
株式会社トリプルセブン・インタラクティブ/  
株式会社ロボット
- 出品作品数** 展示作品: 80点/上映作品: 49点/オフサイト作  
品: 1点/ライブ作品: 2点 (計132作品)

第8回恵比寿映像祭は、「動いている庭」を総合テーマに、現代社会を日々変容する庭と捉え直し、見つめることをコンセプトとした。また、東京都写真美術館の改修休館にともない、さらに地域とのつながりを深めながら、恵比寿近隣の外部会場で開催した。26カ国の国と地域より91名の作家およびゲストの出品・参加を受け、恵比寿ガーデンプレイス内のザ・ガーデンホールおよびルーム、センター広場や日仏会館、ガーデンプレイスタワー棟38階アートスペースSTUDIO38、地域連携各所などの複合会場で、展示、上映、イベント、シンポジウム、レクチャーなど多彩なプログラムを展開した。

**【展示】(ザ・ガーデンホール)**  
ジル・クレマン/ジャンーン・アル=アーニ/ピョートル・ボサツキ/鈴木ヒラク/ウオー・ピクルス・プロジェクト/銅金裕司/クリス・チョン・チャン・ファイ/ジョウ・タオ/JODI/佐々木有美+ドリタ/ロバート・スミッソン/ジェーン・クロフォード&ロバート・フィオーリ/ビデオアース東京(伊藤義彦、大谷正広、中島興ほか)

**【ラウンジトーク】(ザ・ガーデンホール)**  
クリス・チョン・チャン・ファイ/銅金裕司、佐々木有美+ドリタ/ジョウ・タオ/ジャンーン・アル=アーニ/ジョアン・ヘームスケルク(JODI) /ピョートル・ボサツキ/中島興(ビデオアース東京) /中ザウビデオ [地域連携プログラム NADiff a/p/a/r/t] /クワクポリョウタ/鈴木ヒラク

**【展示】(日仏会館ギャラリー)** クワクポリョウタ

**【展示】(恵比寿ガーデンシネマ)** 山内朋樹

**【展示】(STUDIO38)** 上田麻希/藤木淳

**【オフサイト展示】(恵比寿ガーデンプレイスセンター広場)** 中谷芙二子

**【上映】(恵比寿ガーデンシネマ)**  
①追悼シヤンタル・アケルマン《No Home Movie》ジャバンプレミア(ゲスト:ニコラ・エリオット/斎藤綾子) ②澤崎賢一、

ジル・クレマン ドキュメンタリー《動いている庭》ワールドプレミア(ゲスト:エマニュエル・マレス) ③《トラブルメイカーズ ランドアートの話》アジアプレミア ④荒地の先へー短編アニメーション(ゲスト:小野ハナ/若林萌/水江未来) ⑤花園。林。城市:現代中国からのビデオアート(ゲスト:ジョウ・タオ) ⑥不在の庭—そして、誰もいなくなったら(ゲスト:葉山嶺) ⑦ベン・ラッセル「快樂の園」三部作(ゲスト:ベン・ラッセル) ⑧ベン・ラッセル 映像パフォーマンス《われわれが享受している素晴らしいもの》+スペシャル上映 ⑨内戦を生き延びたカンボジア映画《12人姉妹》(ゲスト:鈴木伸和) ⑩ふたつの文化—リディ・パン《フランスは我等が故国》⑪躍動するアジア—DigiCon6 ASIA(ゲスト:山田亜樹/塩田周三) ⑫80年代Videobrasil傑作選

**【シンポジウム】(日仏会館ホール)**  
① [日仏会館共催企画] ジル・クレマン「動いている庭」をめぐって—庭と公共性(パネリスト:乾久美子/山内朋樹/松井茂、司会:池村俊郎) ②ランドアートの話(パネリスト:小西信之/平野千枝子/上崎千) ③庭=運動(アヴァン・ガーデニング)以後(パネリスト:高祖岩三郎/アンテック・ワルチャック/いちむらみさこ)

**【イベント】(ザ・ガーデンルーム)**  
動いている庭—ライブ編(出演: Sjq++/入江陽+銅金裕司/古館健/The SINE WAVE ORCHESTRA)  
動いている庭—パフォーマンス編:《猿媚 -The face of strangers- Hybrid version》(出演:平井優子+山内朋樹+古館健/原留璃彦)

**【地域連携プログラム】(地域連携各所)**  
公益財団法人日仏会館/YEBISU GARDEN CINEMA /伊東建築塾/MA2 Gallery/Gallery工房親/MuCuL/waitingroom/NADiff a/p/a/r/t/MEM/G/P gallery/amu/NPO法人アーツイニシアティブトウキョウ [AIT/エイト]/AL (企画: TRAUMARIS)

\*本事業は、アーツカウンシル東京のフェスティバル事業の一環として開催した。



## 展覧会事業

### 誘致展【大規模改修休館中の誘致展活動（平成26年12月～平成28年6月）】

#### 第15回上野彦馬賞 九州産業大学 フォトコンテスト受賞作品展 UENO HIKOMA AWARD 2014

期 間 平成26年12月4日(木)  
～12月13日(土) 9日間  
場 所 東京芸術劇場ギャラリー2  
主 催 九州産業大学／毎日新聞社  
後 援 文化庁／日本写真芸術学会／  
東京都写真美術館／福岡県／  
福岡県教育委員会／  
RKB毎日放送／  
スポーツニッポン新聞社  
協 賛 キヤノンマーケティングジャ  
パン株式会社／サイバーグラ  
フィックス株式会社／株式会  
社ニコン／富士フイルム株式  
会社／富士フイルムイメー  
ジングシステムズ株式会社／エ  
プソン販売株式会社  
入場者数 751人

#### APAアワード2015 第43回公益社団法人 日本広告写真家協会公募展 APA AWARD 2015

期 間 平成27年3月1日(日)  
～3月10日(火) 10日間  
場 所 APA本部ギャラリー  
主 催 公益社団法人日本広告写真家  
協会 (APA)  
共 催 東京都写真美術館  
後 援 経済産業省／文化庁／東京都  
エプソン販売株式会社／  
オリンパスイメージング株式  
会社／キヤノンマーケティング  
ジャパン株式会社／株式会  
社玄光社／株式会社資生堂／  
株式会社ジャスピコ／株式会  
社ニコンイメージングジャ  
パン／株式会社ピクトリコ／富  
士フイルムイメーシングシ  
ステムズ株式会社／株式会社フ  
レームマン／株式会社堀内カ  
ラー  
協 力 法人賛助会員各社  
入場者数 515人

#### 写真公募展 第40回 2015 JPS 日本写真家協会展 2015 The 40th Exhibition of the JPS

期 間 平成27年6月11日(木)  
～6月26日(金) 15日間  
場 所 東京都美術館  
主 催 公益社団法人日本写真家協会  
後 援 文化庁／東京都／  
東京都写真美術館  
入場者数 3,067人

#### 世界報道写真展2015 WORLD PRESS PHOTO 2015

期 間 平成27年6月27日(土)  
～8月9日(日) 42日間  
場 所 東京芸術劇場ギャラリー1  
主 催 世界報道写真財団／朝日新聞  
社  
共 催 東京芸術劇場  
後 援 東京都写真美術館／  
オランダ王国大使館／  
公益社団法人日本写真協会／  
公益社団法人日本写真家協  
会／  
全日本写真連盟  
協 賛 キヤノンマーケティングジャ  
パン株式会社  
入場者数 18,379人

#### 写真新世紀 東京展2015 NEW COSMOS OF PHOTOGRAPHY 2015 TOKYO Exhibition

期 間 平成27年12月3日(木)  
～12月25日(金) 20日間  
場 所 ヒルサイドテラス／  
ヒルサイドフォーラム  
主 催 キヤノン株式会社  
協 力 ヒルサイドテラス／  
代官山 蔦屋書店／  
北村写真機店  
後 援 東京都写真美術館  
入場者数 5,041人

#### 第16回上野彦馬賞 九州産業大学 フォトコンテスト受賞作品展 UENO HIKOMA AWARD 2015

期 間 平成27年12月9日(水)  
～12月14日(月) 6日間  
場 所 東京芸術劇場ギャラリー1  
主 催 九州産業大学／毎日新聞社  
共 催 東京都写真美術館  
後 援 文化庁／日本写真芸術学会／  
福岡県／福岡県教育委員会／  
RKB毎日放送／  
スポーツニッポン新聞社  
協 賛 キヤノンマーケティングジャ  
パン株式会社／  
サイバーグラフィックス株式  
会社／  
株式会社ニコンイメージング  
ジャパン／  
富士フイルムイメーシングシ  
ステムズ株式会社／  
エプソン販売株式会社  
入場者数 869人

APAアワード2016  
**第44回公益社団法人  
 日本広告写真家協会公募展**  
 APA AWARD 2016

**期 間** 平成28年2月28日(日)  
 ~3月7日(月) 9日間  
**場 所** APA本部ギャラリー  
**主 催** 公益社団法人日本広告写真家  
 協会 (APA)  
**共 催** 東京都写真美術館  
**後 援** 経済産業省/文化庁/東京都  
 エプソン販売株式会社/株式  
 会社オリンパスイメージジ  
 ング株式会社/キヤノンマーケ  
 ティングジャパン株式会社/  
 株式会社玄光社/株式会社資  
 生堂/株式会社ジャスピコ/  
 株式会社ニコンイメージジ  
 ングジャパン/株式会社ピクトリ  
 コ/富士フイルムイメージジ  
 ングシステムズ株式会社/株式  
 会社フレームマン/株式会社  
 堀内カラー/ライカカメラジ  
 ャパン株式会社  
**協 力** 法人賛助会員各社  
**入場者数** 450人

写真公募展 第41回 2016  
**JPS 日本写真家協会展**  
 2016 The 41th Exhibition of the JPS

**期 間** 平成28年6月11日(土)  
 ~6月26日(日) 15日間  
 (予定)  
**場 所** 東京都美術館 (予定)  
**主 催** 公益社団法人日本写真家協会  
 (APA)  
**後 援** 文化庁/東京都/東京都写真  
 美術館



## 教育普及事業 スクール・プログラム

学校児童・生徒が写真・映像メディアとの出会いを通して、豊かな体験学習ができるように、小学校、中学校、高等学校、大学および各種学校の授業や活動と連携した「スクール・プログラム」を実施している。改修工事により休館中であった27年度は、依頼のあった学校へ出張して授業を行うアウトリーチ形式でプログラムを実施した。各学校の状況や授業内容を担当の先生と細かく相談しながら、充実した授業を実現した。

実施回数：27回 参加人数：1,100人

### スクールプログラム内容

#### 1) 青写真—太陽の光で影を写しとる

青写真は、専用の薬品を塗布した印画紙に、紫外線によって像を焼き付ける写真方式で、深い青色の発色が特徴。このプログラムでは、画用紙などに薬品を塗布して青写真用の印画紙を手作りしたあと、花や葉などの自然物や、身の回りにある日用品などを印画紙にレイアウトし、太陽光でその影を焼き付けて作品を制作する。暗室を必要としないため、様々な場所で写真制作を行うことができる。自由な造形活動を行いながら、光と影による表現と、物の形の多様さを学ぶ。

#### 2) 手作りアニメーション体験—驚き盤

「驚き盤」は19世紀を起源とするアニメーション装置。円盤型の用紙に絵や図形を少しずつ変化させながら描いたものを、鏡に向かって回転させて、盤上のスリットを通して像を見ることで、描いた物が動画として知覚されるという仕組みのもの。このプログラムでは、驚き盤を鑑賞し、絵を描いて自ら制作することを通して、アニメーションの仕組みを体験的に学ぶことができる。

#### 3) 手作りアニメーション体験—コマ撮りアニメーション

パソコンやウェブカメラなどの機材を使ってアニメーション作品をグループで制作する。卓上に置いた様々な素材を少しずつ動かして—コマ—コマ撮影する。動かないものに命を与えるアニメーションの制作の楽しさを体験し、その基礎と仕組みを学ぶことができる。

#### 4) 作品鑑賞—対話しながら作品を見てみよう

写真美術館の収蔵作品の画像をスクリーンに投影し、全員でじっくり見て自由に思ったことを対話しながら、鑑賞を深める。充実した言語活動を行えるとともに、観察力や傾聴力など様々な力をはぐくむ。制作のプログラムと組み合わせることで、鑑賞と表現の一体化した授業もできる。

平成27年度 スクールプログラム実績

	年月日	時間	団体名	学年	授業区分	人数	実施場所	プログラム
1	4月10日 (金)	10:00-12:00	ブラウンシュハルク大学 大学院	大学院生	授業等	18	リニューアル準備室	レクチャー (概要説明、日本の現代写真の動向について)
2	6月 1日 (月)	10:45-12:20	調布市立飛田給小学校	5年生	図工	76	同校	作品鑑賞-対話しながら作品を見てみよう
3	6月12日 (金)	10:45-15:15	渋谷区立加計塚小学校	5年生	図工	63	同校	青写真-太陽の光で影を写しとる
4	6月25日 (木)	9:00-12:20	お茶の水女子大学附属小学校	2年生	図工	70	同校	作品鑑賞-対話しながら作品を見てみよう
5	7月 2日 (木)	13:30-15:20	渋谷区立常盤松小学校	4年生	図工	14	同校	青写真-太陽の光で影を写しとる
6	7月 7日 (火)	10:35-12:10	小金井市立前原小学校	6年生	図工	32	同校	青写真-太陽の光で影を写しとる
7	7月14日 (火)	10:35-12:10/ 13:30-15:05	小金井市立前原小学校	6年生	図工	67	同校	青写真-太陽の光で影を写しとる
8	7月30日 (木)	13:30-17:30	ティーチャーズプログラム	教員	教員研修	23	東京都美術館 アートスタ ディールム	青写真、作品鑑賞、コマ撮りアニメーション
9	8月26日 (水)	14:00-16:30	学校教員向け研修会	教員	教員研修	6	東京芸術劇場 ミーティング ルーム7	手作りアニメーション体験の授業について
10	9月 1日 (火)	13:00-15:00	品川女子学院 写真部	中高生	部活動	12	同校	青写真-太陽の光で影を写しとる
11	9月 4日 (金)	15:30-18:00	東海大学付属高輪台高校 写真部	高校生	部活動	34	同校	写真作品の講評 (文化祭での展示のためのアドバイス)
12	9月 7日 (月)	10:45-12:25	港区立白金の丘小学校	6年生	図工	34	同校	青写真-太陽の光で影を写しとる
13	9月11日 (金)	10:40-15:15	港区立御田小学校	4年生	図工	50	同校	青写真-太陽の光で影を写しとる
14	9月18日 (金)	10:45-15:15	調布市立飛田給小学校	5年生	図工	76	同校	手作りアニメーション体験-コマ撮りアニメーション
15	9月18日 (金)	18:00-19:00	東海大学付属高輪台高校 写真部	高校生	部活動	34	同校	写真作品の講評 (文化祭での展示のためのアドバイス)
16	10月 2日 (金)	9:20-10:45/ 11:05-12:30	目黒区立駒場小学校	5年生	図工	69	同校	手作りアニメーション体験-驚き盤
17	10月 8日 (木)	13:40-15:15	中央区立常盤小学校	6年生	図工	12	同校	手作りアニメーション体験-コマ撮りアニメーション
18	10月14日 (水)	10:40-12:15	港区立御田小学校	5年生	図工	59	同校	手作りアニメーション体験-驚き盤
19	10月23日 (金)	10:35-12:10	千代田区立和泉小学校	4年生	図工	37	同校	手作りアニメーション体験-驚き盤
20	11月24日 (火)	10:45-15:15	渋谷区立加計塚小学校	3年生	図工	60	同校	手作りアニメーション体験-驚き盤
21	11月30日 (月)	10:50-15:20	お台場学園 港陽小学校	6年生	図工	57	同校	手作りアニメーション体験-コマ撮りアニメーション
22	12月17日 (木)	10:45-15:15	渋谷区立加計塚小学校	4年生	図工	62	同校	手作りアニメーション体験-コマ撮りアニメーション
23	1月28日 (木)	13:45-15:20	渋谷区立常盤松小学校	4年生	図工	13	同校	作品鑑賞-対話しながら作品を見てみよう
24	2月 2日 (火)	9:20-10:45	目黒区立月光原小学校	2年生	図工	27	同校	手作りアニメーション体験-驚き盤
25	2月 4日 (木)	12:55-13:40	都立一橋高等学校	3年生	選択美術	6	同校	作品鑑賞-対話しながら作品を見てみよう
26	2月22日 (月)	10:45-15:15	渋谷区立加計塚小学校	6年生	図工	63	同校	作品鑑賞-対話しながら作品を見てみよう
27	3月 8日 (火)	11:05-12:30	目黒区立月光原小学校	2年生	図工	26	同校	手作りアニメーション体験-驚き盤
合計						1,100		

【その他団体】

	年月日	時間	団体名	人数	実施場所	プログラム
1	7月17日 (金)	18:00-19:00	ギタークラブ	4	東京芸術劇場ギャラリーI	「世界報道写真展2015」 ギャラリートーク

普及事業  
ワークショップ等

ワークショップ

改装休館中の平成27年度は「東京都写真美術館アウトリーチ・プログラム」と題して、都内各所を会場に、写真・映像について楽しみながら学ぶ様々なワークショップを開催した。

テーマ	講師	開催日	会場	参加人数	参加費
ステレオ写真ワークショップ (Aコース)	高島圭史 (写真家)	平成27年6月27日(土)	東京都美術館スタジオ	11人	一般3,000円 学生2,000円
ステレオ写真ワークショップ (Bコース)	高島圭史 (写真家)	平成27年6月28日(日)	東京都美術館スタジオ	10人	一般3,000円 学生2,000円
フォトドキュメンタリーワークショップ2015	Q、サカマキ (写真家)、外山俊樹 (『AERA』フォトディレクター)	平成27年7月18日(土)、7月19日(日)、7月20日(月・祝)	東京芸術劇場ミーティングルーム7	15人	一般20,000円
夏休みワークショップ：青写真―太陽の光で影を写しとる (Aコース)	当館スタッフ	平成27年8月20日(木)	東京都美術館スタジオ	11人	小学生1,000円
夏休みワークショップ：青写真―太陽の光で影を写しとる (Bコース)	当館スタッフ	平成27年8月21日(金)	東京都美術館スタジオ	13人	小学生1,000円
小学生ワークショップ：手作りアニメーション体験 (Aコース)	当館スタッフ	平成27年10月31日(土)	東京都美術館スタジオ	6人	小学生1,500円
小学生ワークショップ：手作りアニメーション体験 (Bコース)	当館スタッフ	平成27年11月1日(日)	東京都美術館スタジオ	7人	小学生1,500円
高校生のための写真ワークショップ「第1回―暗室でのモノクロ現像を体験しよう」(Aコース)	勝倉峻太、川島崇志、高島圭史 (写真家/東京工芸大学)	平成27年11月21日(土)	東京工芸大学中野キャンパス	7人	高校生2,000円
高校生のための写真ワークショップ「第1回―暗室でのモノクロ現像を体験しよう」(Bコース)	勝倉峻太、川島崇志、高島圭史 (写真家/東京工芸大学)	平成27年11月22日(日)	東京工芸大学中野キャンパス	5人	高校生2,000円
高校生のための写真ワークショップ「第2回―フィルムカメラでの撮影、フィルム現像からモノクロプリントまで」(Aコース)	勝倉峻太、川島崇志、高島圭史 (写真家/東京工芸大学)	平成28年3月19日(土)	東京工芸大学中野キャンパス	13人	高校生2,000円
高校生のための写真ワークショップ「第1回―フィルムカメラでの撮影、フィルム現像からモノクロプリントまで」(Bコース)	勝倉峻太、川島崇志、高島圭史 (写真家/東京工芸大学)	平成28年3月20日(日)	東京工芸大学中野キャンパス	15人	高校生2,000円
合計				113人	

講演会等

写真美術館で開催した展覧会と連動して、展覧会出品作家、展覧会関係者による講演会等のプログラムを実施した。

【自主企画展】

展覧会	テーマ	開催日	講師・出演等	参加人数
第8回恵比寿映像祭	ラウンジトーク	平成28年2月11日(木)	a. クリス・チョン・チャン・ファイ(展示出品作家)	61人
	ラウンジトーク	平成28年2月11日(木)	b. 銅金裕司、佐々木有美+ドリタ(展示出品作家)	90人
	ラウンジトーク	平成28年2月12日(金)	c. ジョウ・タオ(展示・上映出品作家)	27人
	ラウンジトーク	平成28年2月12日(金)	d. ジャナーン・アル＝アーニ(展示出品作家)	24人
	ラウンジトーク	平成28年2月14日(日)	e. ビョトル・ボサツキ(展示出品作家)	43人
	ラウンジトーク	平成28年2月16日(火)	f. 中島興(ビデオアース東京)(展示出品作家)	35人
	ラウンジトーク	平成28年2月17日(水)	g. 中ザワヒデキ [地域連携プログラム NADiff]	34人
	ラウンジトーク	平成28年2月18日(木)	h. クワクポリョウタ(展示出品作家)	36人
	ラウンジトーク	平成28年2月20日(土)	i. 鈴木ヒラク(展示出品作家)	81人
	ラウンジトーク	平成28年2月13日(土)	追) ジョアン・ヘームスケルク(JODI)(展示出品作家)	94人
	シンポジウム [[日仏会館共催企画] ジル・クレマン「動いている庭」をめぐって一庭と公共性]	平成28年2月12日(金)	パネリスト：乾久美子、山内朋樹、松井茂 司会：池村俊郎 モデレーター：田坂博子	72人
	シンポジウム「ランドアートの話」	平成28年2月13日(土)	パネリスト：小西信之、平野千枝子、上崎千 モデレーター：岡村恵子	43人
	シンポジウム 「庭＝運動(アヴァン・ガーデニング)以後」	平成28年2月14日(日)	パネリスト：高祖岩三郎、アンテック・ワルチャック、 いちむらみさこ モデレーター：田坂博子	47人
	上映関連ゲストトーク	平成28年2月11日(木)	ニコラ・エリオット	86人
	上映関連ゲストトーク	平成28年2月12日(金)	ジョウ・タオ	33人
	上映関連ゲストトーク	平成28年2月13日(土)	小野ハナ、若林萌	55人
	上映関連ゲストトーク	平成28年2月14日(日)	葉山嶺	40人
	上映関連ゲストトーク	平成28年2月14日(日)	ベン・ラッセル	87人
	上映関連ゲストトーク	平成28年2月14日(日)	ベン・ラッセル	84人
	上映関連ゲストトーク	平成28年2月15日(月)	澤崎賢一、エマニュエル・マレス	78人
	上映関連ゲストトーク	平成28年2月15日(月)	山田亜樹、塩田周三	27人
	上映関連ゲストトーク	平成28年2月16日(火)	斉藤綾子	86人
	上映関連ゲストトーク	平成28年2月16日(火)	鈴木伸和	35人
	上映関連ゲストトーク	平成28年2月17日(水)	小野ハナ、水江未来	62人
	上映関連ゲストトーク	平成28年2月18日(木)	鈴木伸和	23人
	上映関連ゲストトーク	平成28年2月18日(木)	山田亜樹、塩田周三	89人
イベント「動いている庭—ライブ編」	平成28年2月19日(金)	SjQ+十、入江陽+銅金裕司、古館健、The SINE WAVE ORCESTRA	123人	
イベント「動いている庭—パフォーマンス編 (猿婚-The face of strangers-Hybrid Version)」	平成28年2月20日(土)	平井優子、山内朋樹、古館健、原瑠璃彦	105人	
合計				1,700人

ギャラリートーク

展覧会会期中には、出品作家や担当学芸員による展示解説を行った。

【自主企画展】

展覧会	開催日	参加人数
第8回恵比寿映像祭 「メイン会場とクワクポリョウタの新作インスタレーションを観る！ガイドツアー」	平成28年2月11日(木)、2月14日(日)、2月18日(木)	31人
第8回恵比寿映像祭 「メイン会場から中谷芙二子「霧の彫刻」、STUDIO38を巡る！ガイドツアー」	平成28年2月13日(土)、2月17日(水)、2月20日(土)	18人
合計		49人

## 教育普及事業

### 「あ・ら・かるチャー文化施設運営協議会」(文化施設連携事業)

#### 1 趣旨

渋谷を中心としたJR3駅、渋谷、恵比寿、原宿を結ぶエリアには美術館、博物館、コンサートホール、テーマパーク、図書館など数多くの文化施設があり、それぞれの特徴を活かしながら多様な文化事業を展開している。そこで、各施設の利用者の利便性の向上とこのエリアの文化をエリア内外に浸透させ、社会に活力を与える一助になることを目的に、当初18か所の文化施設で構成した「あ・ら・かるチャー運営協議会」を、平成17年4月20日に設置した。

協議会に加盟する文化施設が連携して各種事業を行うことで、従来にも増して、渋谷・恵比寿・原宿が魅力ある文化ゾーンとしての認知度を高め、文化芸術に触れる場や機会の提供の拡充を図り、人々の生活の中に文化が浸透し、地域社会に活力を与えることを狙いとしている。

また、平成27年4月1日より団体名を「あ・ら・かるチャー文化施設運営協議会」に改名し、文化関連施設の運営に特化した連合体であることを強調した。

#### 2 連携施設

①NHKスタジオパーク、②渋谷公会堂、③トーキョーワンダーサイト渋谷、④Bunkamura、⑤戸栗美術館、⑥ギャラリーTOM、⑦渋谷区立松濤美術館、⑧太田記念美術館、⑨地球環境パートナーシッププラザ、⑩国連大学、⑪セルリアンタワー能楽堂、⑫白根記念渋谷区郷土博物館・文学館、⑬渋谷区ふれあい植物センター、⑭東京都立中央図書館、⑮エビスビル記念館、⑯山種美術館、⑰国立オリンピック記念青少年総合センター、⑱東急シアターオーブ、⑲実践女子大学 香雪記念資料館、⑳國學院大學博物館、㉑こども科学センター・ハチラポ、㉒コスモプラネタリウム渋谷、㉓東京都写真美術館 (平成27年度末時点、計23施設)



かるチャーさんぽ地図 (日本語版、英語版)

#### 3 活動実績

##### (1) 協議会の開催

加盟施設の広報担当者が集まり、連携事業についての協議や情報交換を行った。連絡会会場は各館持ち回り制とし、今年度はサッポロビール本社、國學院大學博物館で開催した。(実施回数：連絡会2回、事務局会3回)

##### (2) 広報宣伝

###### ①かるチャーさんぽ地図の印刷、配付

連携施設を紹介する「かるチャーさんぽ地図」50,000部を作成し、加盟施設および都内観光案内所にて配布。また英語版の施設紹介パンフレット15,000部を、外国人旅行者に向けて配布した。

###### ②ホームページの運営

公式ホームページでは一般向けに開催した事業の告知と、加盟施設の紹介を行った。また、各施設のホームページにリンクを貼り相互PRを行った。

##### (3) 連携事業・イベント

###### ①トークセッション報告

平成32年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに向けて、文化施設が担う役割を考える機会となった、トークセッション「渋谷2020—文化が動かすまちづくり」(平成27年3月17日開催)の報告書を作成し、文化庁やオリンピック関係各所をはじめプレスへ向けて報告書をリリースした。(426件)

###### ②施設見学会

各加盟施設の視察を兼ね、施設見学会を行った。担当施設の学芸員による展示解説やバックヤードツアーなどを行い、参加者間で企画背景や施設運営についての質疑や意見を交換した。

開催日：平成27年9月11日(金)

場所：國學院大學博物館

## 教育普及事業

## ボランティア／博物館実習

## 東京都写真美術館ボランティア

ボランティアスタッフの積極的な参加によって、アウトリーチのワークショップやスクールプログラムのほか、恵比寿映像祭の運営等の活動を実施した。平成27年度は休館中により教育普及プログラムの回数は減少したが、活動日数、参加者数は昨年度とほとんど変化なかった。プログラムがすべて外部施設や各小学校などその都度違う場所に出かけるため自宅から距離が遠いことや、スクールプログラムでの活動がメインであるため平日は仕事があるなどの理由によりボランティアがなかなか参加しづらいケースもあった。

## 1 登録者数：67名

平成26年度からの更新登録者 54名

新規登録者 13名

## 2 ボランティア活動実績

活用事業実施回数 73回 1ヶ月平均 約6回

のべ参加者 237人

(ただしボランティア研修会をのぞく。)年間一人あたり3.2回

(1) ワークショップ・スタッフ活動 6回

(2) スクールプログラム・スタッフ活動 22回

(3) 「恵比寿映像祭」会場スタッフ 45回

## 3 研修会・連絡会

(1) ボランティア研修会 6回

平成27年6月7日(日) ステレオ写真ワークショップ事前研修会 講師：高島圭史(写真家)

平成27年9月19日(土) 対話による作品鑑賞研修会

講師：武内厚子(当館学芸員)

平成28年2月27日(土) コマ撮りアニメーション研修会

講師：布山タルト(アニメーションソフト「KOMAKOMA」の開発者、アニメーション作家・研究者、東京藝術大学大学院映像研究科教授)

平成27年5月21日(木)、22日(金)、27日(水) 新規研修

(2) ボランティア連絡会 3回

平成27年6月7日(日)、9月19日(土)、

平成28年2月27日(土)

## 博物館実習

平成27年度は、大規模改修工事による休館のため、博物館実習(学芸員実習)の募集を行わなかった。

## 作品資料収集／作品収集実績

### ●収集の基本方針

写真作品（オリジナル・プリント）を中心に、写真文化を理解する上で必要なものを、幅広く収集する。

#### [写真作品]

- 1 国際的な視野に立って、国内外の芸術性、文化性の高い作品を幅広く収集する。
- 2 写真の発生から現代まで、写真史の上で重要な国内外の作家・作品を幅広く、体系的に収集する。
- 3 歴史的に評価の定まった作品を重視するとともに、各種の展覧会等で高い評価を受けた作家・作品の発掘に努め、現代から未来を展望した収集を行う。
- 4 東京を表現、記録した国内外の写真作品を収集する。
- 5 日本の代表的作家については重点的に収集し、その作家の創作活動の全体像を表現し得る点数を収集する。
6. 基本方針〔写真作品〕5に基づき作品を収集した第一期重点作家（17人）  
秋山庄太郎、石元泰博、植田正治、川田喜久治、木村伊兵衛、桑原甲子雄、白川義員、土田ヒロミ、東松照明、長野重一、奈良原一高、濱谷浩、林忠彦、藤原新也、細江英公、森山大道、渡辺義雄

#### [写真資料]

- 1 出版物（写真集、専門書、雑誌等）については、写真文化に関するものを歴史的、系統的に収集する。
- 2 ネガフィルムの類については、作家・作品研究などに必要と考えられるものを収集する。
- 3 ポスターなど、写真展の付属資料（図録、チケット等）を収集する。
- 4 その他、作家や作品の関連資料、周辺資料を適宜収集する。

#### [写真機材類]

- 1 写真の原理と発掘の歴史、ソフトとハードの接点を理解させる展示に必要なものを収集する。
- 2 体験学習などの事業活動に必要なものを収集する。

#### [映像資料]

- 1 映像文化史を展示するのに必要な映像資料を系統的に収集する。
- 2 体験型の展示を行うため、映像装置などのレプリカや模型を計画的に製作する。
- 3 日本およびアジアの映像文化史についての調査研究を進め、重要な映像資料を収集する。
- 4 各映像ジャンルの代表的な映像資料および芸術価値の高い作品を収集する。

### ●写真作品収集の新指針(平成18年11月13日策定)

- 1 写真作品収集の基本方針に則り、写真美術館コレクションをより充実させる。
- 2 黎明期の写真のように、希少価値的な作品を積極的に収集する。
- 3 写真史において重要な役割を果たした歴史的作家の作品を体系的に収集する。
- 4 1980年代以降に評価の定まった作家作品を充実させる。
- 5 新進展で取り上げた作家や国内外の主要な賞を受賞した作家、国内外の主要美術館における主要展覧会において取り上げられた作家など、若手作家の作品を収集する。
- 6 写真美術館の展覧会（自主展、収蔵展）で取り上げた作家作品を収集する。
- 7 基本方針〔写真作品〕5に基づく新規重点作家の設定
  - (1) 日本を代表する作家であること
  - (2) 国内外で評価が高いこと
  - (3) 日本の写真の一分野を代表する作家であること
  - (4) 国内外の主要美術館で作品が収集され個展が開催されていること
  - (5) 現在おおよそ40代、50代、60代の作家を目安にする
  - (6) 収集にあたっては、現在の収集予算および市場の高騰を鑑み、購入及び寄贈により約200点の収蔵を目指す
  - (7) 重点作家については、国内外の写真・美術の動向を鑑み随時見直しをする
- 8 新指針7に基づく第二期重点作家（21人）  
荒木経惟 石内都 オノデラユキ 北井一夫 北島敬三 小山穂太郎 佐藤時啓 篠山紀信 柴田敏雄 杉本博司 鈴木清 須田一政 高梨豊 田村彰英 島山直哉 深瀬昌久 古屋誠一 宮本隆司 森村泰昌 やなぎみわ 山崎博

平成27年度収集点数：1,805点

東京都写真美術館コレクション点数：33,393点

【内訳】国内写真作品：1,354点 海外写真作品：68点

【内訳】国内写真作品：21,671点 海外写真作品：5,633点

映像作品資料：8点 写真資料：375点

映像作品資料：2,367点 写真資料：3,722点

## ●作品収集実績

### 東京都購入作品

作家名	作品名	技法	サイズ (mm)	点数	制作年	備考
倉田 精二	〈FLASH UP〉より	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	279.4x355.6	25	1975-1979	平成28年度展覧会出品予定作品
佐内 正史	〈生きている〉より	発色現像方式印画	457x560	15	1995	平成29年度展覧会出品予定作品
高木 庭次郎	〈The New Year in Japan〉他	コロタイプ印刷に手彩色	178x252x11	2	1906	平成31年度展覧会出品予定作品
蛭川 実花	〈flowers〉	発色現像方式印画、インクジェット・プリント	2200x2200x60	2	2015	平成29年度展覧会出品予定作品
野口 里佳	〈Marabu〉より	発色現像方式印画	500x750	8	2005	平成29年度展覧会出品予定作品
花代	〈無題〉	発色現像方式印画	1205x885	8	1987-1996	平成29年度展覧会出品予定作品
本城 直季	〈Small Planet〉より	発色現像方式印画	1070x1360	4	2005-2009	平成28年度展覧会出品予定作品
ホンマ タカシ	〈Tokyo and My Daughter〉	発色現像方式印画	203x254	27	1999-2010	平成28年度展覧会出品予定作品
松江 泰治	〈JP-01〉〈JP-02〉〈JP-05〉〈JP-22〉より	発色現像方式印画	670x770	7	2005-2014	平成29年度展覧会出品予定作品
安村 崇	〈日常らしさ〉より	発色現像方式印画	945x1200	5	1998-2002	平成29年度展覧会出品予定作品
山崎 博	〈Optical Landscape〉〈Untitled〉〈Early Works〉より	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	508x405他	48	1969-1991	重点収集作家 平成28年度展覧会出品予定作品
NAKAGAWA, Osamu James	〈Gama〉より	インクジェット・プリント	1041x1549	4	2009-2012	平成31年度展覧会出品予定作品
WEERASETHAKUL, Apichatpong	〈The Fire〉他	インクジェット・プリント	1470x2220	6	2009	平成28年度映像展出品予定作品
SINGH, Dayanita	〈The Third Sex〉より	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	400x500	8	2002	平成29年度展覧会出品予定作品
松本 俊夫	〈つぶれかかった右眼のために〉他	16ミリフィルム (3面マルチプロジェクション)	13分／パート・カラー／サウンド	2	1968	平成29年度映像展出品予定作品
WEERASETHAKUL, Apichatpong	〈Ashes〉	シングルチャンネル・ビデオ	21分48秒／カラー／サウンド	1	2012	平成28年度映像展出品予定作品
合 計				172		

### 東京都写真美術館購入作品

作家名	作品名	技法	サイズ (mm)	点数	制作年	備考
HERSCHEL, John Fredrick William	〈A cave in the cliff on beach, Dawlish, Devon〉	カメラ・ルシダを用いたドローイング	186x257	1	1816	写真発明者のハーシェルがカメラ・ルシダを用いて描いた風景画。最初期のものと考えられ、写真発明史において重要な作例である。
合 計				1		

※東京都写真美術館購入作品1点については、委員会で購入決定後、東京都歴史文化財団から東京都に寄贈する。

## 寄贈

作家名	作品名	技法	サイズ (mm)	点数	制作年	備考
稲村 不二雄	《黒部ダム、トラムウエー》 《飛行中のパイロット》	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	209x156	2	1965-1970	大東元氏ご遺族より
大東 元	《ニコライ堂》、《東京富士》他	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	151x212	225	1939-1989	大東元氏ご遺族より
木村 恒久	《プレッシャーの手引き(試練)》他	その他の技法	292x220	755	1965-1997	元中京大学森本悟郎氏より
小久保 善吉	《バリ島市場風景》 (高度21000フィート)	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	198x157	2	1960-1970	大東元氏ご遺族より
白川 義員	《神々の原風景》、《南極大陸》より	銀色素漂白方式印画		9	1962-1986	作家ご本人より
清野 賀子	《Emotional Imprintings》 《a good day, good time》他	発色現像方式印画	375x550	26	1995-2007	作家ご遺族より
塚本 闔治	《潜水艇内部を覗くメジナ》他	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	252x302	2	1936	大東元氏ご遺族より
長島 有里枝	《Self-portrait (full-figured, yet not full-term)》	発色現像方式印画	1750x2180	1	2001	平成29年度展覧会出品予定作品
花代	《無題》	発色現像方式印画	503x390	7	1987-1996	購入時寄贈、平成29年度展覧会出品予定作品
美影堂	《(女性像)》	鶏卵紙	113x67	1	1890	裏面に石版による「美影堂 写 東京神田 御成道五軒町 BIYEIDO TOKIO JAPAN」のシール有。さらに墨書で「明治二十三年三月十日」とある。
船山 克	《越路吹雪(其の二)》	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	268x186	1	1955-1960	大東元氏ご遺族より
堀野 正雄	《グラナドス》他	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	154x111	120	1931-1939	作家のご遺族より、平成24年度「幻のモダニスト—写真家堀野正雄の世界」展出品作品
本城 直季	《Small Planet》より	発色現像方式印画	1070x1360	3	2002-2006	購入時寄贈、平成28年度展覧会出品予定作品
ホンマ タカシ	《東京郊外》、《東京の子供》より	発色現像方式印画	465x568	21	1998-2001	購入時寄贈、平成28年度展覧会出品予定作品
松本 路子	《Portraits of Women Artists》 《Niki de Saint Phalle》より	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	210x315	15	1981-1993	作家ご本人より
山崎 博	《Early Works》より	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	274x183	12	1969-1974	購入時寄贈、平成28年度展覧会出品予定作品
吉江 雅祥	《西方上空から見た富士》	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	310x239	1		大東元氏ご遺族より
NAKAGAWA, Osamu James	《GAMA》、《Banta》より	インクジェット・プリント	1061x1524	17	2009-2012	購入時寄贈
PAYGNARD, Marc	《L'essuie neige》	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	200x254	1	1976	作家ご本人より
RAULT, Jean	《Japanese album-2000-2014》 より	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)		12	2000-2007	作家ご本人より
WEERASETHAKUL, Apichatpong	《Dancing on Truck, Nabua, 2008》 《Nabua Monkey, 2008》	発色現像方式印画	331x500	2	2013	購入時寄贈、平成28年度展覧会出品予定作品
GEIBERT, Ron	《The Competitions》より	発色現像方式印画	154x228	18	1981-1984	作家ご本人より
大東 元	《(世相をみた合成写真モニタージュ)》 《(戸山ハイツ)》他	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	211x533	210	1939-1979	大東元氏ご遺族より
岡上 淑子	《白い花束》	その他の技法	350x270	1	1955	福原義春館長より
木村 恒久	《モダンタイムス》他	オフセット印刷	362x493	114	1974-1996	元中京大学森本悟郎氏より
森田 亜雄	《(水中カメラによる海底新趣)》	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	311x240	12	n.d.	大東元氏ご遺族より
吉江 雅祥	《(空中富士)》	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	310x240	5	n.d.	大東元氏ご遺族より
作家不詳	《(パールハーバー、真湾攻撃)》他	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	110x147	32	1941-1947	大東元氏ご遺族より
瀬田 なつき	《5windows eb》、《5windows is》	ビデオ・インスタレーション		2	2015	第7回恵比寿映像祭オフサイト展示出品作品
松本 俊夫	《モナ・リザ》他	シングルチャンネル・ビデオ (オリジナルは16ミリフィルム)	3分/カラー /サウンド	3	1973	購入時寄贈
合 計				1,632		

## ●プリントスタディールーム

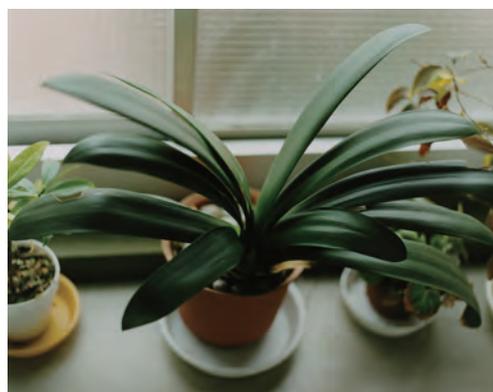
東京都写真美術館では、写真作品・資料の収集、展覧会等での展示・鑑賞をおこなっており、研究・鑑賞のために直接作品等を閲覧する特別閲覧（プリントスタディールーム）制度を設けている。なお、平成27年度は大規模改修による休館に伴い休止した。

平成27年度収蔵作品の紹介

東京都購入作品



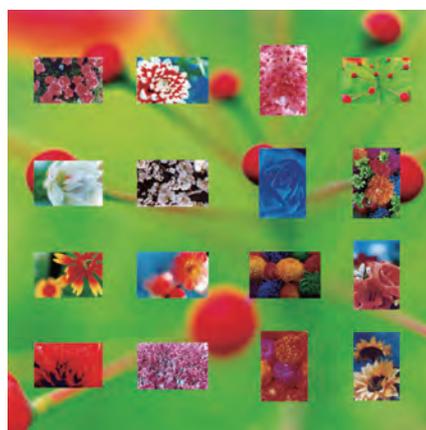
倉田精二 〈FLASH UP〉より 〈入墨の男 池袋・文芸座通りビル屋上〉  
1975年 ゼラチン・シルバー・プリント



佐内正史 〈生きている〉より  
1995年 発色現像方式印画



高木庭次郎 〈The New Year in Japan〉より  
1906年 コロタイプ印刷に手彩色



蜷川実花 〈flowers〉  
2015年 発色現像方式印画、インクジェット・プリント



野口里佳 〈Marabu〉より〈#14〉  
2005年 発色現像方式印画



花代 〈無題〉  
1989年 発色現像方式印画



本城直季 〈Small Planet〉より《東京 日本 2005》  
2005年 発色現像方式印画



ホンマタカシ 〈Tokyo and My Daughter〉より  
1999年-2010年 発色現像方式印画



松江泰治 〈JP-01〉より〈JP-01 55〉  
2014年 発色現像方式印画



安村崇 〈日常らしさ〉より〈みかん〉  
2002年 発色現像方式印画



山崎博 〈Early Works〉より〈山下洋輔2〉  
1969年-1974年 ゼラチン・シルバー・プリント



オサム・ジェームス・ナカガワ 〈Gama〉より〈#001〉  
2009年 インクジェット・プリント



アピチャッポン・ウィーラセタクン 《Ashes》  
2012年 シングルチャンネル・ビデオ



ダヤニータ・シン 《第3の性》  
2002年 ゼラチン・シルバー・プリント



松本俊夫 《つぶれかかった右眼のために》  
1968年 16ミリフィルム (マルチ・プロジェクション)

東京都写真美術館購入作品



ジョン・ハーシェル 《海辺の断崖にある洞窟、デヴォン州ダウリッシュ》  
1816年 カメラ・ルシダを用いたドローイング

## 調査研究・普及活動(個人)

### 【東京都写真美術館展覧会図録論文】

柳生みゆき、田坂博子、岡村恵子、碓井千鶴、多田かおり、

遠藤みゆき、栗栖美樹

「第8回恵比寿映像祭 動いている庭」展リーフレット、東京都写真美術館、2016年

### 【東京都写真美術館紀要No.15】

伊藤貴弘

「花代の初期作品をめぐる」 pp.105-111

遠藤みゆき

「中島待乳と幻燈」 pp.71-91

藤村里美

「木村専一コレクションについて」 pp.93-103

三井圭司

陸前高田被災資料デジタル化プロジェクト(共著)

「陸前高田被災資料デジタル化プロジェクトの活動および活動経験に基づく災害への備えについて」 pp.51-68

### 【東京都写真美術館教育普及プログラム記録集】

石田哲朗

「東京都写真美術館の教育普及プログラムについて」 pp.3-5

武内厚子

「東京都写真美術館とボランティア活動」 pp.62-63

### 【寄稿】

遠藤みゆき

「写真と幻燈」『幻燈スライドの博物誌：プロジェクトン・メディアの考古学』（早稲田大学坪内博士記念演劇博物館監修、土屋紳一、大久保遼、遠藤みゆき編著）、青弓社、2015年、pp.105-108

「写真の展開2014」『artscape』WEB版、2015年4月1日号

「レビュー 幻燈展—プロジェクトン・メディアの考古学」『表象・メディア研究』第6号、2016年3月、pp.107-110)

碓井千鶴

「映画『あえかなる部屋 内藤礼と、光たち』コメント」、チラシ・公式パンフレット

笠原美智子

「石内都の『遺品』」『石内都 遺されたもの』一般社団法人日本芸術写真協会、2015年、n.p.

「選評」『VOCA2016展 現代美術の展望-新しい平面の作家たち』展図録、公益財団法人日本美術協会・上野の森美術館、2016年、pp.14-15

鈴木佳子

「昭和を撮った一枚の写真〈第2回〉土田ヒロミ」『一個人』KKベストセラーズ、2015年12月10日発売号、pp.6-8

関次和子

「書評 水越武『真昼の星への旅』『アサヒカメラ』朝日新聞出版、2015年5月号、p.220

「書評 擬態写真45年の集大成海野和男『自然のだまし絵 昆虫の擬態』『アサヒカメラ』朝日新聞出版、2015年9月号、p.204

「昭和を撮った一枚の写真〈第1回〉奈良原一高」『一個人』KKベストセラーズ、2015年10月10日発売号、pp.8-10

丹羽晴美

“Issei Suda”, *Aperture Magazine*, issue #219, Summer, Aperture, NY, 2015, pp.86-93

“Naoki Ishikawa; Archipelago”, *Aperture Magazine*, issue #222, Odyssey, Aperture, NY, 2015, pp.118-125

“Photographs That Gaze at the Transcendent”, *Thomas Neumann, The Japanese Series*, DISTANZ Verlag GmbH, Berlin, Germany, 2015, pp.69-77

藤村里美

「INFORMATION」『美術手帖』2015年8月号、p.185

「未来に期待すること」「未来をなぞる 写真家 畠山直哉」映画パンフレット、n.p.

三井圭司

「昭和を撮った一枚の写真〈第3回〉森永純」『一個人』KKベストセラーズ、2016年2月10日発売号、pp.4-6

山口孝子

「2014年写真の進歩、展示・修復・保存関係」『日本写真学会誌』第78巻3号、日本写真学会、2015年、pp.121-123

“Influence of Fumigation on Photographic Images and Their Stability in Long-Term Preservation”, *Bull. Soc. Photogr. Imag. Japan.*(2015)、Vol.25 No.1、pp.1-6.

### 【学会発表】

遠藤みゆき

「中島待乳の幻燈制作」明治美術学会第4回例会、江戸東京博物館会議室、2015年11月7日

三井圭司

「初期写真における肖像制作と戦場記録 フェリーチェ・ベアトを中心に」第66回美学会全国大会、早稲田大学戸山キャンパス、2015年10月10日

山口孝子

「TAC フィルムの劣化挙動の研究 一 来歴の異なるフィルムと劣化加速度フィルムを比較して一」(中川裕美、笛木諭)、第37回文化財保存修復学会、文化財保存修復学会、京都工芸繊維大学、2015年6月27日

## 【講演会・シンポジウム等】

## 石田哲朗

「IMAポートフォリオレビューSTEP OUT!」、レビューアー、2015年8月22日、代官山ヒルサイドフォーラム、東京

「写真新世紀25周年記念イベント：写真の未来は僕らがつくる！ポートフォリオレビュー」、レビューアー、2015年12月11日、代官山ヒルサイドテラス・アネックスA棟、東京

## 碓井千鶴

「映画『はなればなれに』アフタートーク」（下手大輔、浦田佳代子との鼎談）、ユーロスペース、2015年5月7日

「Hors Pistes Tokyo 2015 オープニング・トーク」（シャルレーン・ディニユット、小野ハナ、瀧健太郎との鼎談）、アンスティチュ・フランセ東京、2015年6月12日

「Rising Indies! in Manila ラウンドテーブル “メディアの移行”」（シリーン・セノ、ジャン・トレス、ラヤ・マーティン、シェラッド・アンソニー・サンチェス、ジム・ルンベラ、ティミー・ハーン、池田暁、栗原みえとの鼎談）、Green Papaya Art Projects、2015年10月4日

「映画『あえかなる部屋 内藤礼と、光たち』アフタートーク（中村佑子との対談）、イメージフォーラム、2015年10月23日

「Rising Indies! in Tokyo ラウンドテーブル “アジアでインディペンデント映画を作る！観せる！発信する！”」（シリーン・セノ、ジャン・トレス、ジム・ルンベラ、ティミー・ハーン、パム・ミラス、池田暁との鼎談）、イメージフォーラム3F「寺山修司」、2015年11月1日

## 笠原美智子

Lecture, “Japanese Photographic Museum: Its Development and Art Practice”, Photo Bangkok, Bangkok Art and Culture Center, September 13, 2015

Talk “Japanese contemporary photography and the museum”, Public Panel Discussion “The Younger Generation: Japanese Contemporary Photography” with Tomoko Sawada and Lieko Shiga, The J. Paul Getty Museum, October 15, 2015

トーク「アーロン・シャオ×笠原美智子」MIO PHOTO OSAKA, 天王寺ミオ、2015年12月4日

第五回「社会の芸術フォーラム」、「(不)自由一表現という行為の自由と臨界」、東京大学本郷キャンパス、2016年2月20日

## 関次和子

「黒部今昔 冠松次郎と、現在の黒部を語る」講演会（黒部市宇奈月国際会館・セレネ美術館）2015年5月31日（日）富樫ヨーコ（冠松次郎親族）志水哲也（登山家・写真家）との対談

「安曇野アートライン シンポジウム 北アルプスと山岳写真の魅力」（安曇野市穂高交流学習センター「みらい」）2015年11月23日（月・祝）赤沼健至（写真家）、菊池哲男（写真家）との対談

## 田坂博子

トーク「映画のいま・いまから：三宅唱×田坂博子×結城秀勇」ミュージック・トゥデイ・トーキョー・2015（疾駆のトーク）、Gallery916、2015年8月8日

Symposium, “Collections on the Move; Archival Impulse: Collecting and Archiving Moving Image in Asia,” Museum of Modern Art, New York, September 10, 2015.

国立民族学博物館研究会講演「映像民族誌のナラティブの革新」国立民族学博物館、2015年11月21日

ディスカッション「デジタル時代のインディペンデント（主催：東北芸術工科大学、共催：山形国際ドキュメンタリー映画祭）」、とんがりビル、2016年3月6日

## 丹羽晴美

「《写真》3ヶ国会議」、展覧会「見えるもの見えないもの #02」関連企画、東京藝術大学、上野、2015年7月26日

## 三井圭司

「写真新世紀25周年記念イベント：写真の未来は僕らがつくる！ポートフォリオレビュー」、レビューアー、2015年12月11日、代官山ヒルサイドテラス

講演会「被災写真と向き合う『RD3-Projectの取り組み』清林寺さんの会 講演のタペ PART29、サントリーホールブルーローズ、2015年10月19日

## 【非常勤講師等】

## 伊藤真弘

嘉悦大学ビジネス創造学部「メディア表現技法B」2015年6月11日

## 遠藤みゆき

実践女子大学生活科学部「メディア論」2015年12月14日

## 岡村恵子

早稲田大学文学学術院文化構想学部「コンテンポラリー・アート」春学期

## 笠原美智子

明治学院大学大学院「美術史学特殊講義ⅢA, B」春学期・秋学期

九州産業大学大学院「写真特殊演習」2015年7月17日、18日

明治大学理工学部共通総合講座B「写真とフェミニズム」2015年10月21日

## 鈴木佳子

跡見学園女子大学「写真論」春学期

## 田坂博子

明治学院大学文学部芸術学科「デジタルアート論2A」春学期

情報科学芸術大学院大学「戦後日本のマス・メディア受容と現代芸術の文化学」2015年7月18日、19日

### 丹羽晴美

学習院女子大学国際文化交流学部「国際文化交流演習」  
2015年春学期

法政大学国際文化学部「写真論」2015年秋学期

立教大学文学部基幹科目「職業と人文学」2015年9月29日、  
10月6日

### 藤村里美

玉川大学芸術学部メディア・デザイン学科「写真史」2015  
年秋学期

### 三井圭司

明治学院大学「写真史写真理論研究」2015年前期・後期  
北海道教育大学「デザイン特講」2015年度冬期集中講義、  
2016年1月8日～11日

東京藝術学舎講義「明治、このフシギな時代2015年版」  
2015年7月22日

### 山口孝子

東海大学課程資格教育センター、「博物館学実習Ⅰ写真技術」、  
春・秋学期集中講義

東京文化財研究所、保存担当学芸員フォローアップ研修、「写  
真資料への影響（LEDによる展示、ダゲレオタイプ写真製作等  
に関して）」、2015年7月6日

東京文化財研究所、保存担当学芸員研修、「劣化と保存 写  
真」、2015年7月23日

### 【委員・審査員等】

#### 石田哲朗

「LensCulture Earth Award 2015（国際写真コンテスト）」  
審査員

#### 伊藤貴弘

平成27年度（第66回）東京都立高等学校定時制通信制課程  
芸術祭写真部門審査員

#### 碓井千鶴

SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2015ノミネート審査員、  
Rising Indies! Tokyo-Manilaキュレーション、マティアス・  
ピニエイロ映画祭2015企画・プロデュース、短編映像作品制  
作プロジェクトTKY2015企画・プロデュース、International  
Festival Signes de Nuit Paris上映プログラム提供

#### 岡村恵子

平成28年度愛知県美術館美術品収集委員会・オリジナル映像  
部会委員

#### 笠原美智子

東京国立近代美術館評議員（美術・工芸部会）、東京国立近  
代美術館美術作品購入等選考委員会委員（写真部門）、財団法人  
西洋美術振興財団賞審査委員、財団法人周南市振興財団林  
忠彦賞選考委員、東川賞審査員（東川町）、「VOCA展」実行  
委員および選考委員（上野の森美術館）、吉野石膏美術振興

財団評議員、ヒロシマ賞選考委員会委員、Jury for the Prix  
Pictet Japan Award, the Scientific Committee of the  
Fondazione Fotografia Modena, nominator for the Prix  
Pictet Award, nominator for the First Basilico prize, the  
Gabriele Basilico Prize in Architecture and Landscape  
Photography, nominator for the First Book Award,  
London, nominator for The One To Watch, British  
Journal of Photography.

#### 関次和子

第5回トーキョー・アート・ナビゲーション・コンペティ  
ション最終審査員、Jury for the Wildlife Photographer of  
the Year Awards2015, the Natural History Museum,  
London, UK

#### 田坂博子

平成27年度 [第18回]文化庁メディア芸術祭選考委員（ア  
ート部門）、Advisory member for the Collaborative  
Cataloging Japan [CCJ]

#### 丹羽晴美

公益財団法人日本広告写真家協会公募展審査委員、福島市写  
真美術館企画専門委員

#### 藤村里美

京都国立近代美術館美術作品購入等評価委員

#### 三井圭司

陸前高田被災資料デジタル化プロジェクト事務局長、史跡上  
田城跡整備実施計画検討委員

#### 山口孝子

日本写真学会理事、日本写真学会画像保存研究会委員、日本  
写真保存センター諮問調査委員、国立歴史民俗博物館資料保存  
環境検討委員会委員、国立国会図書館資料保存懇話会委員、国  
立民族学博物館人間文化研究機構連携研究員

### 【インターン】

東京都写真美術館では平成20年度からインターン制度を導入  
している。原則1年間、美術館のスタッフとして指導学芸員と共  
に展覧会や教育普及事業を担当し、将来の美術館活動及び写真・  
映像文化を支える専門的な人材育成を目的としている。平成27  
年度は大規模改修工事のため、インターンの募集はしなかった  
が、海外からの要請に応え、短期のインターンを受け入れた。

#### ヤナ・フォドア, Janna Fodor

担当業務：作品管理システム/スクールプログラム

展覧会準備・補助

平成28年度「杉本博司」展（仮称）

指導学芸員：丹羽晴美

（平成27年8月1日～11月30日）

## 広報事業

平成27年度は、コンセプト「『写真美術館』らしさとは何か？」を念頭に、①休館告知 ②休館中の活動周知 ③専門性を生かしたコンテンツ提供 ④リニューアル・オープンの準備 などに重点をおいて広報活動を行った。

### 1 広報誌「写真美術館ニュースeyes（アイズ）」発行（vol.85、vol.86）発行部数各22,000部、八折り

<主なコンテンツ>

85号（平成27年11月11日発行）

第8回恵比寿映像祭、出張スクール・プログラム活動報告、青写真の制作方法、企業交流会の紹介、休館告知

86号（平成28年3月30日発行）

平成27年度収蔵作品について、リニューアル・オープン告知、第8回恵比寿映像祭 ほか



ニュース85号、86号表紙

### 2 ホームページの活用

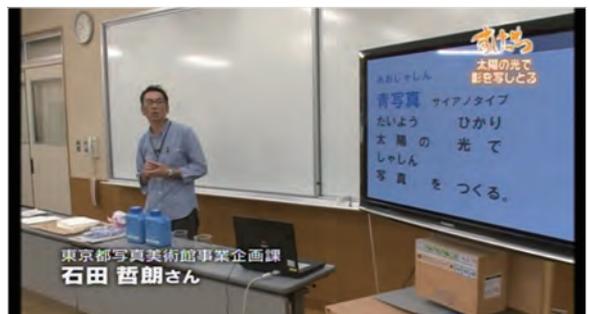
休館中の活動を紹介する媒体としてホームページを活用した。平均アクセス数は約15万ページビュー。新着情報には、ワークショップやスクール・プログラム、ブログ「えびす日記」、広報誌、共催展などの告知を頻繁にアップし、休館中も活動している美術館をアピールした。



ブログ「えびす日記」

### 3 プレス取材対応

広報東京都、ART NEWS TOKYO、TOKYO DIGITAL MUSEUM、Tokyo Art Navigationへの情報提供を行った。休館中も、プレス関係者からの、作品・作家に関する問い合わせに積極的に答えるとともに、図版掲載依頼にも数多く対応した。また、教育普及事業を頻繁にホームページや広報誌でとりあげたところ、テレビや新聞から取材依頼があり、当館ならではの活動の幅広さをアピールできた。



テレビ東京「すけっち」9月9日放映  
東京都小金井市立前原小学校スクールプログラム



「Tokyo Art Navigation」平成28年2月4日掲載

4 プレスリリース、チラシの配布およびポスター掲示

マスコミ、美術館・写真・教育関係各所に、休館告知リリース、恵比寿映像祭チラシおよび広報誌などの配布を行った。館外で休館告知ポスターの掲示を行った。



休館告知ポスター



工事仮囲いの休館告知シート



『YEBISU STYLE』より

5 専門性を生かしたコンテンツ提供と広報

外部メディアを通して、当館ならではのコンテンツ提供を行うとともに、関連する展示情報や休館中の活動周知に役立った。

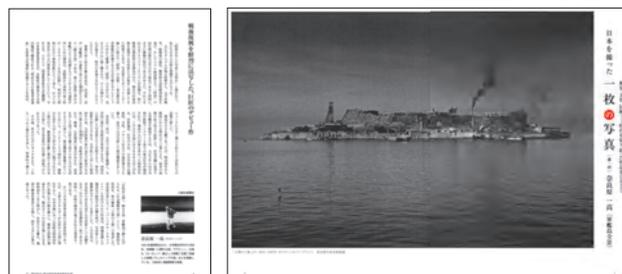
- (1) 『PHaT PHOTO』(隔月連載)
 

当館の収蔵作家と代表的な写真作品を紹介するグラビア連載(表2、表3、モノクロ)
- (2) 『YEBISU STYLE』(年4回)
 

当館の収蔵作家と最近の展示情報を紹介する連載(中面カラー、1ページ)
- (3) 『一個人』(隔月連載)
 

「昭和」をテーマに、収蔵作品と学芸員のエッセイで構成(巻頭カラー、3ページ)
- (4) CINRA.NET(不定期、年5回)
 

学芸員と各界著名人の対談連載。各回2時間~半日程度の取材を敢行。



『一個人』より



『PHaT PHOTO』より



『CINRA.NET』より

## 6 記者懇談会の実施

休館中に記者と直接話ができる貴重な機会として、記者懇談会を開催した。

開催日：平成28年1月14日(木) 16:00～19:00

出席者数：19媒体、29名

<主なプログラム>

【第1部】リニューアル準備室2階会議室

- ・平成26年度外部評価報告、平成27年度事業実績・休館中の活動、平成28年度運営方針
- ・リニューアル・オープンおよび総合開館20周年記念事業の概要
- ・第8回恵比寿映像祭概要
- ・平成27年度新規収蔵作品

【第2部】リニューアル準備室3階  
懇親会



記者懇談会の様子

## 7 広報誌別冊「nya-eyes (ニアイズ)」vol.52～vol.63発行

月刊、発行部数：各号30,000部

展覧会以外の事業を紹介することを目的に、広報誌「eyes」の別冊として、猫漫画「クレムリン」(カレー沢薫、講談社)とコラボレーションした「nya-eyes」(ニアイズ)を発行。休館中の活動をテーマにした内容が話題を呼んだ。



ニアイズ表紙

## 8 「『写真美術館』らしさとは何か」としての取り組み

### (1) 周年史制作

平成2年の一次施設開館から平成28年度までの約25年間の活動を記録した年史『東京都写真美術館 総合開館20周年史 一次施設開館から25年のあゆみ』を編纂した。



周年史表紙

### (2) 新シンボルマーク・ロゴタイプ導入準備

平成26年度中に決定した新シンボルマーク・ロゴタイプについて、商標登録の手続、使用マニュアル作成、アプリケーション制作などを行った。

### (3) 公式ウェブサイトの改訂

新シンボルマーク・ロゴタイプへの対応と、多くの端末への対応を考えた公式ウェブサイトの改訂を行った。平成28年度も引きつづき調整を行う予定である。

### (4) リニューアル・オープンに向けた準備

プレスリリース準備、展覧会広報や記念事業の広報計画立案と実施の準備など、リニューアル・オープンに向けた準備を進めた。平成28年度も引きつづき準備を進めていく。

### (5) その他

企画、調査、執筆、翻訳などを例年にも増して行ったことは、広報担当者のスキルアップとなり、今後の広報活動に生かせる休館中の大きな成果となった。